

阪喉会のピア・サポート ——何に答えているのか

2021年6月29日

公益財団法人阪喉会

理事長 杉本 隆

メールアドレス : t-sugi19@tb3.so-net.ne.jp

本発表の目的

- 公益財団法人阪喉会（以下、阪喉会という）の提供するピア・サポートについて明らかにする。
- 阪喉会のピア・サポートの内容について、誰に対して、何に対して、どのように、サポートしているのかを中心に明らかにする。

本発表の内容

1. 患者会のピア・サポートとは？
2. 阪喉会の概要
3. 阪喉会の事業
4. 発声教室におけるサポート方法の特徴
5. 発声教室でのピアの関係
6. まとめ
7. 今後の課題

1. 患者会のピア・サポートとは？

「がんサロン ピア・サポート 実践ガイド」による（注1）

- ピア・サポート：同じ立場の者どうしの支援
- がん患者会が提供してきたサポートを行政が促進
- 欧米ではセルフヘルプ・グループ（以下、SHG）と呼ぶ
- 活動の中心は「話すこと」「聞くこと」＝情緒面の支え合い
→ 阪喉会では取り組んでいない

2. 阪喉会の概要

(1) 歴史と沿革

- 阪喉会：がん患者会としては最も古い（注2）、大阪府域を活動拠点とする喉摘者の患者会

表1 阪喉会の歴史と沿革

1949（昭和24）年	阪大病院*耳鼻咽喉科の患者が設立
1953（昭和28）年	第4回総会時に機関誌「阪喉」を創刊
1972（昭和47）年	財団法人に改組、大阪府委託事業の受託
1977（昭和52）年	大阪駅前第一ビルに移転
1991（平成3）年	住之江会館に移転
2011（平成23）年	公益財団法人に移行
2017（平成29）年	大阪市西区江戸堀に移転

*大阪大学医学部附属病院

出典：『阪喉会五十年史』（2000）より、筆者が一部加筆して、作成。

(2) 会員の概要

(2016年3月現在の会員総数371人について)

- 手術時平均年齢は64.0歳
- 会員の平均年齢は73.3歳
- 会員の男女比は88 : 12

出典：阪喉会機関誌『阪喉』No.63, 2016
 付属の会員名簿より筆者作成

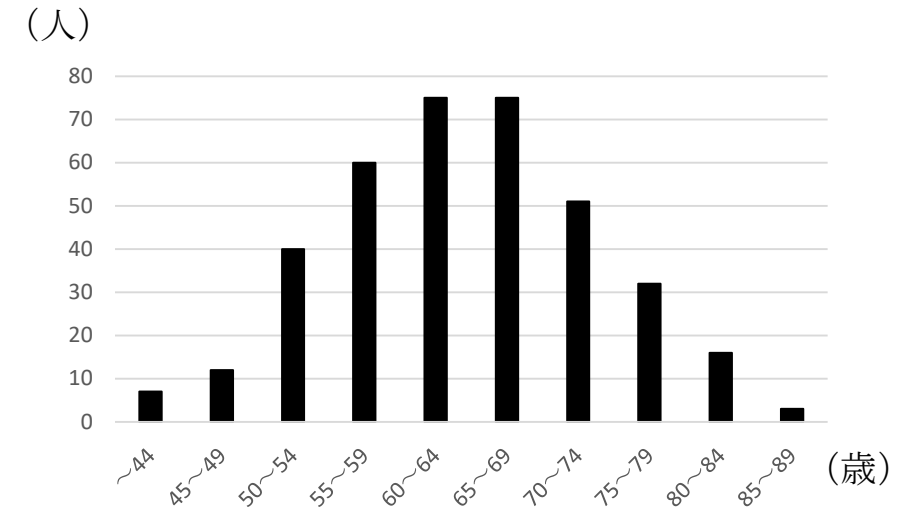


図1 阪喉会会員の手術時年齢分布

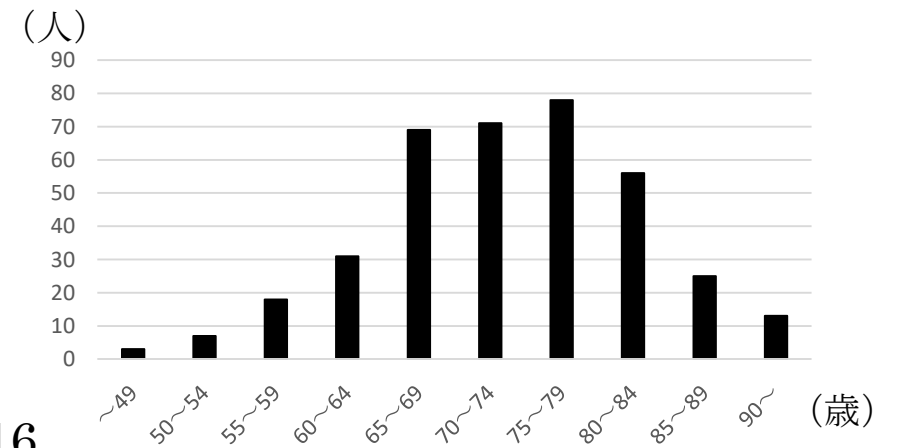


図2 阪喉会会員の年齢分布

(3) 喉摘者とは？

- 喉摘者：喉頭摘出者＝咽喉頭がんの切除により喉頭を摘出した者
- 失声する→**代用音声による発声**
 - ①食道発声 ②シャント発声（医療的処置）
 - ③人工喉頭（器具使用）：電動式・笛式
- 気管孔からの気管呼吸者になる
 - 気管孔の保護（専用エプロンなど）
 - 乾燥防止（人工鼻、ネブライザーなど）

3. 阪喉会の事業

(1) 喉摘者用日常生活用具等の販売

- 電動式人工喉頭、笛式人工喉頭、ウインプロン（気管孔保護エプロン）の販売



電動式人工喉頭と
使用の様子

(いずれも阪喉会ホームページより)



笛式人工喉頭と
使用の様子



ウインプロン（気管孔保護エプロン）

(いずれも阪喉会ホームページより)

(1) 喉摘者用日常生活用具等の販売 (つづき)

- 人工喉頭は自治体が給付＝代金を補助→手続きのサポート
- 患者会としては異例の事業＝提供事業者の不在
← 笛式人工喉頭を自ら開発した経緯の反映 (?)
- 事業展開にはマーケットサイズが影響
電動式人工喉頭：西日本＝年販売額1400万円 (2019年度)
→ 東日本：銀鈴会＋他に民間3社程度＝単価7万円台
笛式人工喉頭、ウインプロン：全国→競合なし
＝年販売額800万円 (2019年度) (単価の高い特殊なエプロンは別)

(2) 発声教室の運営

- 代用音声の発声訓練：難易はあるが、どの方法も訓練が必要
- 食道発声37%、電動式人工喉頭31%、**筆談27%、身振り手振り4%、シヤント発声2%**：1995年1月から2008年10月までの期間に、大阪府立成人病センター（当時、現在は大阪国際がんセンター）において、喉頭摘出手術を受けた255名のうち、158名から回答を得た調査（注3）
- 食道発声50%、電動式人工喉頭37%、笛式人工喉頭8%、シヤント式発声3%：2011年1月から2012年12月の間の、阪喉会への新たな入会者82名を対象に、2013年6月に、62名から回答を得た調査（注4）

(2) 発声教室の運営 (つづき)

表2 発声教室の開催状況

教室名	開催曜日	開催時間	開講日数	開講1日当たり		
				指導員数	受講者数	計
初心者ガイドダンス (入会希望者)	月	11時～12時20分	30	1.0	1.5	2.5
肥後橋*食道発声教室 (初級)	月、水、金	11時～12時20分	116	4.5	5.3	9.8
肥後橋*食道発声教室 (女性)	月、水、金	11時～12時20分	116	1.8	2.8	4.6
肥後橋*食道発声教室 (中上級)	月、水、金	13時～14時20分	116	8.2	20.0	28.2
肥後橋*笛式発声教室	火、木	14時～15時	80	2.7	3.8	6.5
肥後橋*電動式発声教室	火	12時～13時	45	2.8	7.5	10.3
阪大**食道発声教室	土	12時～13時	45	3.1	9.1	12.2
阪大**笛式発声教室	土	12時～13時	43	0.9	1.1	2.0
阪大**電動式発声教室	土	12時～13時	45	0.9	3.2	4.1
がんセンター***電動式発声教室	土	12時30分～14時	45	3.8	9.0	12.8

*阪喉会の本部所在地 **大阪大学医学部附属病院 ***大阪府立大阪国際がんセンター

教室名、開催曜日、開催時間は2017年3月現在。開講日数、開講1日当たりデータは、2016年4月～2017年3月。

筆者作成：阪喉会のホームページ（注5）より筆者が作成した表（注6）に、開講日数、開講1日当たり指導員数、受講者数を加筆して作成

肥後橋食道発声教室



図3：初級教室（2020年6月）



図4：中上級教室（2020年6月）



図5：中上級教室（2017年2月）

すべて阪喉会ホームページより

4. 発声教室におけるサポート方法の特徴 (1) 指導の内容

- 患者 (Old Boy) が患者 (New Comer) を指導
- リハビリテーション的な性格
 - = アメリカでは病理学者 (speech-language pathologist) が実施 (注7)
 - = 日本でも言語聴覚士という専門家が存在

(2) 担い手＝指導員

- 指導員と受講者の役割が**入れ替わることはない**
- 専門的ボランティア＝**技法指導**に徹する
 - ★専門職（言語聴覚士）ではない
 - ★素人ボランティアではない＝**受講者とは一線**
- 指導員の育成システム→**組織的に体験的知識を蓄積**
 - ミーティング：日常的課題への対処
 - 合同研修会：問題事例、成功事例の報告
 - 日喉連近畿ブロック研修会：毎年10月に3日間

5. 発声教室でのピアの関係

(1) 発声指導の場

- 初心者ガイダンス、食道発声初級、電動式、笛式教室など
→ 受講者は指導員から**受動的に指導を受ける**
- 会話可能となる受講者
例) 食道発声中上級教室の受講者20名の構成
初級合格ー中級テスト約5名：片言、会話不能
中級合格ー上級テスト約5名：単純な会話可能
上級合格者**約10名：十分に会話可能**
- 電動式、笛式の教室にも数名

(1) 発声指導の場 (つづき)

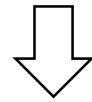
- 会話可能となる受講者
 - ⇒ 対等に近くなる **ピア関係の成立**
(代用音声話者として、発声品質を相互にチェック)
- 初級から中上級への昇級時、教室責任者が指導員を割当て
 - = 受講者は指導員の選択不可
 - ⇒ 上級合格後、受講者による **指導員の選択** が許容

(2) 発声指導以外の活動

- 研修旅行の実施：春日帰り、秋一泊
＝生活技法の習得（食事、痰の処理、入浴など）
- 発声発表会、発声大会の実施：上級者＋中級者or入会3年内
＝発声上達へのインセンティブ
- 公式・非公式の「同好会」（ゴルフ、カラオケ、旅行など）
→独自技法の習得（音程不能の電動式によるカラオケなど）

6. まとめ

- 指導員：指導するという行為



会員はエンパワメントされている (注8)



- 受講者：発声指導の場＋それ以外の活動への参加

7. 今後の課題

- 阪喉会に**来ない（来ることができない）患者**のサポート：
心身のフレイル、治療継続中など
→ **医療機関との連携**に課題あり⇒ **患者会の活用を！**
- 笛式人工喉頭の汎用性
→ 喉摘後、舌がんで舌を切除したケース
- さまざまな**デバイス開発**の可能性

- 注1：大島寿美子・木村恵美子，2014，『がんサロン ピア・サポート実践ガイド——広げようピア・サポートの輪』みんなのことば舎。
- 注2：佐藤武男，2000，「序にかえて——阪喉会と私」『阪喉会五十年史』財団法人阪喉会：3。
- 注3：金澤成典・吉野邦俊・藤井隆・上村裕和・栗田智之・鈴木基之，2012，「喉頭摘出後の音声リハビリ・代用音声・食生活について——アンケート調査」『頭頸部外科』22(3)：303-310。
- 注4：公益財団法人阪喉会，2014，「第二回アンケート調査の集計と分析——高齢者と食道再建者への対応」『阪喉』公益財団法人阪喉会。61：62-69。
- 注5：公益財団法人阪喉会，2018，『阪喉会について』公益財団法人阪喉会ホームページ（2018年1月16日取得，<http://www.hankoukai.jp/TOP.html>）。
- 注6：杉本隆，2020，「ピア・サポートにおけるエンパワメント効果——『阪喉会』の指導員を事例として」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』49：105-123。
- 注7：Duguay, M. J., 1989, “Esophageal Voice: An Historical Review”, *Journal of Voice*, 3(3): 264-268.
- 注8：杉本隆，2020，「ピア・サポートにおけるエンパワメント効果——『阪喉会』の指導員を事例として」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』49：105-123。